



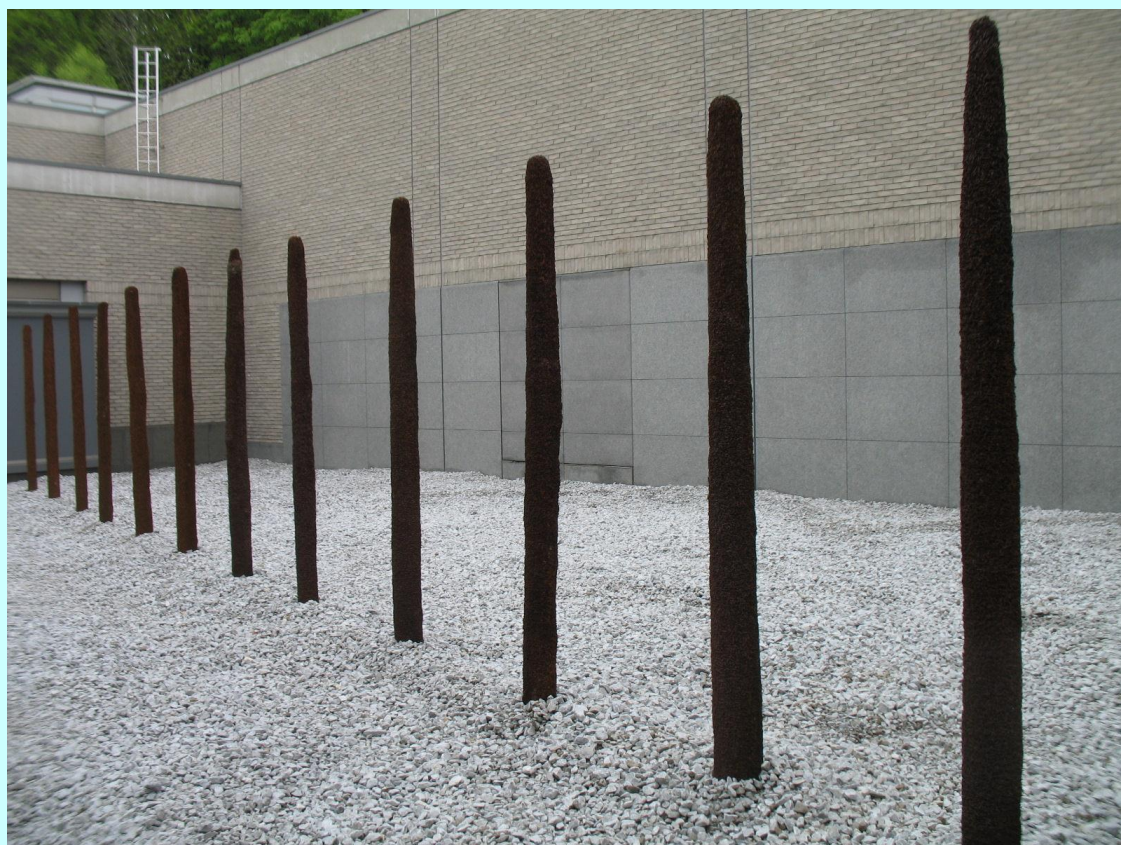
いざみ

No.36

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 6



《大地／開墾 '2010》

榎原 武正

自作自選 6 作者の言葉

2010年、「立体表現展‘10」開催とともに、札幌芸術の森美術館中庭に12本の棒状の丸太を鉄板で覆い、無数の釘を打ち込み自然の力（雨、風）による新しい生命、「サビ」による作品を展示しました。1990年からテーマを「大地／開墾」とし、平面、インスタレーション（構築及び解体）を発表してきましたが、2001年から本格的に棒状の作品に取り掛かり、この仕事も記録に残る作品の一つとなりました。（檜原武正）

タイトル	「大地／開墾‘2010」
設置場所	札幌芸術の森美術館中庭
制作年	2001～2009年
素材	丸太に釘
写真	久保洋一

宮の森の四季 6

本郷新記念札幌彫刻美術館

宮の森での新しい日々

学芸員 樋泉 綾子

今年4月より札幌彫刻美術館学芸員に着任し、2カ月余りが過ぎました。2005年9月から札幌芸術の森美術館の学芸員を務めてまいりまして、井上みどり学芸員と入れ代わるかたちで初の異動です。芸術の森の豊かな緑にも愛着がありましたが、ここ宮の森も、周辺は閑静な住宅街、山々を近くに感じることができ、本当に恵まれた環境で仕事をさせてもらっているな、と実感する日々です。

ここはスタッフ5人の小さな美術館。お客様ひとりひとりと会話のある、アットホームなところが魅力のひとつです。ここだからこそできること、ここならではの良さをもっともって見つけ、実践していきたいと思っています。

また、友の会の橋本会長には学芸員になって初めて担当した展覧会「アフリカン・マスク」で大変お世話になり、また、こうしてご縁が繋がったことを嬉しく思っております。

これから本郷新のことについて勉強を重ねつつ、美術館としての新しい取り組みに挑戦していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

自作自選 6 作者の言葉

2010年、「立体表現展‘10」開催とともに、札幌芸術の森美術館中庭に12本の棒状の丸太を鉄板で覆い、無数の釘を打ち込み自然の力（雨、風）による新しい生命、「サビ」による作品を展示しました。1990年からテーマを「大地／開墾」とし、平面、インスタレーション（構築及び解体）を発表してきましたが、2001年から本格的に棒状の作品に取り掛かり、この仕事も記録に残る作品の一つとなりました。（檜原武正）

タイトル	「大地／開墾‘2010」
設置場所	札幌芸術の森美術館中庭
制作年	2001～2009年
素材	丸太に釘
写真	久保洋一

宮の森の四季 6

本郷新記念札幌彫刻美術館

宮の森での新しい日々

学芸員 樋泉 綾子

今年4月より札幌彫刻美術館学芸員に着任し、2カ月余りが過ぎました。2005年9月から札幌芸術の森美術館の学芸員を務めてまいりまして、井上みどり学芸員と入れ代わるかたちで初の異動です。芸術の森の豊かな緑にも愛着がありましたが、ここ宮の森も、周辺は閑静な住宅街、山々を近くに感じることができ、本当に恵まれた環境で仕事をさせてもらっているな、と実感する日々です。

ここはスタッフ5人の小さな美術館。お客様ひとりひとりと会話のある、アットホームなところが魅力のひとつです。ここだからこそできること、ここならではの良さをもっともって見つけ、実践していきたいと思っています。

また、友の会の橋本会長には学芸員になって初めて担当した展覧会「アフリカン・マスク」で大変お世話になり、また、こうしてご縁が繋がったことを嬉しく思っております。

これから本郷新のことについて勉強を重ねつつ、美術館としての新しい取り組みに挑戦していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

追悼

佐藤忠良先生をしのぶ

鈴木 吾郎(彫刻家)

佐藤忠良先生との出会いは古く、大学の彫塑卒業生で作ったグループ展「藻塑」の第1回展(1969年)の時、札幌の大丸藤井ギャラリーへひょっこり顔を出してくれたのがきっかけだった。私のヤクザな作品を「神経的には好きな作品だな」と言ってくれた。このご縁が長い付き合いの始まりだった。上京のたびにアトリエを訪ねたものだが、さりげない話の中からハツとする示唆を得ることが多く、アトリエを後にするとふつつつと制作への意欲が湧く思いがあった。

久しぶりに忠良先生からのお便りを読み返してみた。封書16通、ハガキを合わせて65通もあった。読みながら先生の謙虚で温かい心情がよみがえって来た。1987年2月8日のお便りには「最近になって、随分仕事がダラクしていたのが解り、しばらく落ち込み、このごろ、三ヶ月ばかり、写生に徹した裸をやっているところです」との文面がある。74歳の言葉である。私は現在71歳。ああ自分と同じころ、忠良先生はこんな思いを書いてくれたのだ…と今もなお感慨深いものがある。

私がまだ若かった頃、「三かけ運動」(?)の話があった。「汗をかけ」「恥をかけ」「手紙をかけ」というものだが、その後の私の人生を変えることになった。中でも「恥をかけ」という言葉は重く、表現者としての目がさめる思いだった。「自分が、どう人の目に映るか、どんなふうに見えるか、ということが生き方の根本にあるようでは人の心を動かすものはつukれない。どう映ろうと、どう思われようと、これが自分なのだ、という気持ちが必要である」と

いうのである。先生は「作品は自画像である」とも言っている。作品は、作者の生き方の投影であるということである。

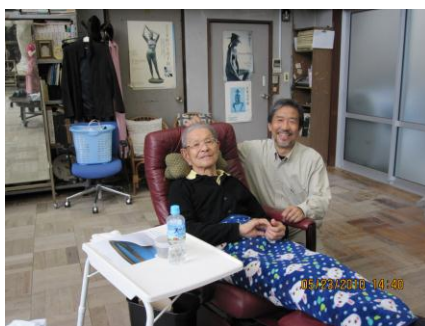
先年亡くなられた片岡球子さんとのエピソードも面白かった。ある時、片岡さんの祝賀会へ行った。帰りの上がりかまちで、片岡さんの足が草履に届かなかったので、忠良先生がしゃがんで履かせてあげたのだが、それに感動した球子さんから巻紙に筆字の長いラブレター(忠良先生曰く)を次々にもらったという。封筒からはみ出るような大胆な筆跡だったが、あまりにも達筆すぎて読めなかった。

また、恩師・朝倉文夫さんのアトリエに16個の頭像が残っていた。それで当時を知るお弟子さんにモデルがいたか、いないかを言い当てる遊びをしたが、すべて当てることができた。一見同じように作っていても写真だけでは表現できない奥行きみたいなモノがある具象作家はモデルを使うべきだとのことで、私もモデルを使うようになった。

「大きなかぶ」のレリーフを作っている時に訪ねたこともある。「再版のたびに書き直しているが、なかなか力が入っている絵が描けない」と苦労しているところだった。制作台に紐を結び、それを自分で引いて鏡に映し、リアリティーを出そうと苦心していた。見ていて一緒に笑ってしまったが、ほほえましかった。もうあのひとときは無くなったのだと思うのだが、未だにピンと来ないでいる。

(写真は2010年5月23日、先生のアトリエで)

彫刻家・佐藤忠良さんは2011年3月30日、98歳で亡くなりました。



春爛漫の石狩日帰りバスツアー紀行

「無辜の民」鑑賞と桜花満喫(戸田記念墓地公園)



友の会の春のバスツアーが5月19日、会員、一般50人が参加して行なわれた。石狩浜で本郷新の代表作「無辜の民」を鑑賞したあと桜の名所、戸田記念墓地公園で満開の桜を堪能、春の一日を心ゆくまで楽しんだ。ツアーの感想を一行の最年長者として昨年に続いて参加した内海節男さん(90)ら4人に寄せてもらった。

戸田記念墓地公園の桜を満喫 内海節男(一般)

細川さんがバスガールよろしく「桜と彫刻を巡るバスツアー」の案内役を務めてくださり、定刻出発進行。小野寺紀子先生のアトリエ見学から始まって、石狩浜の本郷新「無辜の民」と彫刻の見学と清掃作業を終え、バスは一路、戸田記念墓地公園の桜見物に向う。桜並木を抜け、四方、桜に囲まれた丘にシートを敷き、京料理の三段重ねの豪華弁当を賞味。あとは三々五々桜を觀賞して帰途につく。途中、海産物店でお土産タイム、あいの里駅構内とマンション街の彫刻などを見学し、有意義な楽しいバスツアーを終えた。



圧倒されたアトリエの雰囲気 仙丸 晃(会員)

三段弁当と桜に魅せられてツアーに参加した人とは私のこと。彫刻家のアトリエ見学は初体験でしたが、アトリエ(工房)に入ったとたん虜になりました。所狭しと大小の回転作業台が置かれ、テーブルの上には詳細な設計図が無造作に置かれ、その傍らには発泡スチロール(?)のデッサン像があり、工房の壁には作品群がずらりと並んでいて、映像制作に携わっている者には嬉しくなりました。最大の収穫でした。



「無辜の民」から人間愛を 高橋 宏(会員)



5月19日は少し肌寒いくらいの気温だったが、幸いに雨に降られることもなく、楽しいバスツアーであった。石狩の浜にある本郷新の「無辜の民」は北国の浜風にさらされて、厳しい冬の間も耐えるのだろう。そう考えると罪の無い人びとの苦しみを表現する作品を置く場所としては最もふさわしい場所に思えた。

札幌彫刻美術館にある「わだつみのこえ」も学徒出陣により無念の死を遂げた若者の姿である。この作品に込められた作者の願いは戦場で無駄に命を落とすことのない若者の姿なのだろう。この二つの作品に共通するものは人間に対する愛おしさなのだろうか。

震災被害者に思いを寄せて 民 亮一(一般)

小野寺さんの彫刻アトリエを見学したあとに本郷新の作品「無辜の民—石狩」の鑑賞と清掃。この像に秘められた思いは東日本大震災の被害者の方たちと通じるものがある。続いて訪れた戸田記念墓地公園。整然と配置された墓碑、満開の8000本を超えるソメイヨシノ、色鮮やかな緑の樹木、芝生など、日本海を望む丘陵の広大な景観に魅せられた。気の利いた弁当もおいしかったし、楽しい行楽の一日だった。

2011 年度友の会総会開催

野外彫刻清掃保全活動の推進、彫刻クイズラリー中島公園でも

2011年度札幌彫刻美術館友の会の総会が4月24日、札幌市資料館(中央区大通西13)で行なわれ、新年度の活動計画、予算などを決めた。

総会には会員26人が出席、議長に松原安男さんを選出したあと、2010年度活動報告、同決算・監査報告を審議、いずれも原案通り決定した。さらに、2011年度活動計画、同予算案を審議、活動計画では野外彫刻清掃計画、彫刻クイズラリー実施などが原案通り承認された。新年度予算案は総額81万8591円が計上され、会員

交流・研修費35万円、会報など広報活動費29万円、彫刻清掃、地図コンテンツ制作を含む一般活動費2万円、管理費8万円などが認められた。このほか会計の期間を定める会則の一部改正を決めた。また、出席者から決算・監査報告、新年度予算案に関連して、次年度繰越金、運営準備金などについて質疑があったほか、友の会の活動にあたって統一したジャンパーの製作が提案され、新年度で検討することとなった。なお、役員については前回改正から任期が2年(2010、



11年度)となり、今期の役員改選はなかった。

総会后、前年度の活動状況を報告するスライドや第7作目となる友の会作成のDVD「木下成太郎像」の発表などがあった。

(写真は昨年の活動状況を説明する橋本会長)

市の助成金交付12万円決定

彫刻クイズラリー実施とスタッフジャンパー購入

友の会が今年実施を予定している彫刻クイズラリーの補助金として応募した「札幌市市民まちづくり活動促進助成金」の申請が認められ、このほど満額12万円の助成が決まった。

友の会が提出した事業計画によると、昨年、大通公園で実施した子供を対象にした彫刻クイズラリーを今年は中島公園にも広げ、2カ所で行なうことにし、パンフレット作成、講師謝礼、彫刻清掃、さらに活動のための名入りジャンパー製作費など総計23万円の予算を計上、約半額の12万円の助成金交付が決定した。

新調するジャンパーはシルバーグレーの長袖で、胸と背中に会員の猪股岩生さんがデザインした友の会のシンボルマークと「札幌彫刻美術館友の会」の文字を緑色であしらう。会員への頒布価格など詳細は事務局で検討中。昨年の「のぼり」の製作に続き、会の野外での活動に強力なPR武器が増えた形だ。

ぜひご利用を！！

会員証提示で入館料優待割引

札幌彫刻美術館と札幌芸術の森野外美術館の入館料が友の会会員証提示で割引が受けられます。ぜひ、利用してください。詳細は各窓口で問い合わせを。

▼彫刻美術館

一般 300円が250円に
65歳以上 250円が200円に

▼芸術の森野外美術館

700円が630円に

札幌彫刻美術館開館 30 周年

入館者 16 年ぶりに 7800 人超

多彩な記念展続く

今年で開館30周年を迎えた本郷新記念札幌彫刻美術館は昨年度の入館者が7841人と前年比947人増え、16年ぶりに7800人を超えた。本年度は30周年記念展開催などで1万人の大台回復を目指したいとしている。

美術館の入館者は開館翌年の1982年(昭和57年)の2万2634人をピークに年々下降傾向を続け、99年には4千人台まで落ち込んだ。2007年、美術館が札幌市芸術文化財団に統合されたのを機に札幌芸術の森美術館との連携による企画展の開催などで来館者増を図ってきた成果が現れた格好。

本年度は開館30周年企画展として「抽象彫刻30人展—北の作家たち」(7月10日まで)に続き、「具象彫刻30人展—」(7月16日～9月4日)を企画するなど、久々に入館者1万人突破を狙っている。佐藤信館長は「芸森との連携、収蔵作品を工夫して目先の変わった企画を展開したことなどが入館者増につながった」と分析、入館者1万人台回復へ意欲を燃やしている。

道内彫刻 2000 点

仲野三郎コレクション

友の会が引き継ぐ

友の会の元副会長で創設以来の会員である仲野三郎さん(北広島市在住)が1987年から20年余りかけて道内をくまなく駆け巡って撮影した彫刻作品の写真、2,200点とその作品データ一式がこのほど仲野さんの好意で友の会に引き継がれた。

コレクションは彫刻作品の一点一点がきちんとアルバムにファイルされ、各作品の制作者名、制作年、サイズ、設置場所などを几帳面に記載したメモなどからなり、道内の彫刻の全貌を知ることが出来る貴重な財産。

コレクションを受け継いだ橋本信夫会長は「亡くなられた奥さんと全道を走り回って撮影した貴重な資料。この資料を活用して、ぜひ北海道の彫刻の戸籍簿を作りたい」と話している。

今年も「木下成太郎像」清掃
鴨々川清掃運動と共催

札幌・中島公園の「木下成太郎」像の清掃が昨年に続き、今年も6月5日、行なわれた。

今回は同公園内を流れる鴨々川の清掃運動を続けている鴨々川を清流にする会との共催で、木



下像の水洗いからワックスかけ、ふき取りと手馴れた作業で清掃を終えた。

(写真は石川博司会員提供)

今年もいっぱい洗うぞ！

野外彫刻清掃スケジュール

今年度の野外彫刻清掃活動の予定がまとまった。

計画によると今年は秋までに14件の清掃作業があるが、すでに真駒内第1公園、中島公園、すすき野駅前通り商店街など、5、6月中に5件の清掃が終わった。7月以降の作業予定は次の通り。

7月7日	道庁前庭
7月中旬	中島公園百花园跡
7月30日	中島公園
8月6日	大通公園クイズラリー
8月下旬	豊平・月寒公園
9月2日	近代美術館 知事公館庭
9月中旬	中島公園
9月17日	豊平・羊ヶ丘展望台

事務局日誌

▼4月14日＝定例役員会(エルプラザ)仲野三郎会員のコレクション引継ぎ計画、総会議案作成、市民まちづくり活動助成金申請などについて報告、協議▼24日＝友の会2011年度総会(札幌市資料館会議室)2011年度予算案など決定(詳細6ページ)▼5月12日＝定例役員会(エルプラザ)新年度野外彫刻清掃スケジュール、友の会スタッフジャンパー製作、会報36号編集企画▼19日＝石狩バスツアー(詳細5ページ)▼20日＝札幌市文化部長表敬訪問。新任の杉本雅章部長にあいさつ▼6月3日＝彫刻美術館表敬訪問。会長以下5人。来年度の友の会企画展などについて意見交換▼9日＝定例役員会(エルプラザ)会報校正など

編集後記

会報がカラー印刷になってから気になることが増えた。特に、表紙の配色は作品の写真とバックの地の色とのコントラストが難しい。いまさらながら生来の“色音痴、がうらめしくなる。(大内)

札幌彫刻美術館友の会 会報「いずみ」No.36

2011年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」36号 目次

自作自選6 《大地／開墾2010》	榎原武正	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季 6 「宮の森での新しい日々」	樋泉綾子	2
巻頭言「彫刻のある街並み」	大内 和	3
追悼「佐藤忠良先生をしのぶ」	鈴木吾郎	4
石狩日帰りバス紀行		5
友の会ニュース		
友の会2011年度総会、市民街づくり助成金		6-7
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

開館30周年記念 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■抽象彫刻30人展—北の作家たち—

開催中～ 7月10日[日]まで

■具象彫刻30人展—北の作家たち—

会期：7月16日[土]～9月4日[日]

秋山知子、池田裕太、板本伸雄、伊藤幸子、伊藤寿朗、今谷孝、岡本空、小野寺紀子、柿崎均、桂充子、川上加奈、川上勉、川名義美、鴻上宏子、佐藤一明、佐藤志帆、佐藤雅奉、椎名澄子、鈴木吾郎、田中隆行、内藤満美、中村和雄、引山絵里、丸岡哲也、丸山恭子、水谷のぼる、水野智吉、向川末桜、村山由布、森川ヒロシ

■(貸し館)9月6日～9月18日

■第15回本郷新賞受賞記念彫刻展

会期：9月24日[土]～11月13日[日]

記念館

■土と火の祭り —テラコッタ展—

会期：開催中～8月21日[日]

■本郷新賞歴代受賞作家と本郷新展

会期：8月23日[火]～12月4日[日]

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>